

大牟田市立駛馬南小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、“福祉”を中心に、地域の人とのつながりを大切にし、地域の方々の支援を受けながら、今の自分にできることを実践しようとする持続可能な社会の担い手を育成することを目標に掲げている。

そして、この視点に立ち、地域の方々、特に高齢者との交流を図りながら共に支え合って生きていくことのすばらしさを感じ取り、見つけた課題に自ら取り組む体験活動を実現することを重点として取り組んでいる。

特に、高学年では、一人暮らし高齢者宅を訪問するなどの交流を通して、その生き方に学んでいる。また、認知症について調べて感じたことや考えたことをもとに、今の自分たちが地域のためにできることについて話し合い、実践し発信する活動を行っている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

<スローガン：心豊かにつながり合う南っ子の育成>

1年生：むかしのあそびにちょうせんしょう	(生活科	1月	6時間)
2年生：つたえあおう町のすてき	(生活科	1月	7時間)
3年生：駛馬南探検隊	(総合	4～7月	30時間)
エンジョイ！日本の伝統	(総合	11～12月	20時間)
4年生：諏訪川探検	(総合	4～7月	20時間)
私たちにできるボランティアI	(総合	9～10月	20時間)
5年生：一人暮らし高齢者訪問	(総合	4～9月	32時間)
6年生：認知症について知ろう	(総合	9～12月	26時間)

3 特徴的な活動事例

<6年生 総合的な学習の時間「認知症について知ろう」の取組>

(1) 目標

- 我が国の高齢化の現状や認知症について正しく知り、認知症の方への接し方などを意欲的に追究することができる。
- 駛馬南校区での先進的な社会福祉活動の様子を知り、これからの社会を支える一員としての意識を高めることができるようにする。

(2) 実際の展開

- ①高齢者の増加に伴う認知症の現状や駛馬南校区の先進的な「見守り声かけ模擬訓練」の取組に関心を持たせる。
 - ・高齢者の増加や認知症について、大牟田市認知症ケア研究会の方々をGTにお招きし、認知症紙芝居やグループ討議を行い、関心を高める。
- ②認知症の高齢者の方との接し方について、さまざまなケースでの接し方を考える。



・認知症の方への接し方をグループで話し合っただけ考えたことを模造紙に書き、それをもとに考えを交流する。

・それぞれのグループの発表をもとに、GTからのアドバイスをもらう。

③ GTからのアドバイスをもち、さまざまなケースでの接し方や自分たちにできることについて考えたことを、どのように表現・実践していくか話し合う。

・模造紙やポスターに表現する。

・「認知症になっても住みよいまちづくり」のために、「ゴミのないまち」をめざし、自主的に、朝の活動時間や下校時間を使って、ゴミ拾い活動を行う。

・「あいさつに一言プラス」の取組を考え、地域の方等に「おはようございます。今日は寒いですね。」などコミュニケーションを深めるような挨拶を実践する。

④ 表現したものを、他学年や地域の方々に発信する。

・児童集会で、取組について紹介する。

（ユネスコスクールの日制定記念児童集会）

・地域の行事に積極的に参加し、お手伝いを実践する。

（敬老会での案内役、人情巻き寿司大会での準備など）

・ゴミを落とさないよう呼びかける趣旨のポスターを作成し、公民館や地域に掲示してもらう。



4 本年度の成果と課題

○成果

・地域の方々、社会福祉協議会の方々、公民館の方々など、GTとして多くの方々のご理解とご協力をいただきながら、体験的な活動の充実を図ったことで、子どもたち自身が地域や高齢者の方々との結びつきを感じる事ができた。また、それらの体験を通して、自己有用感を感じるような振り返りを書いている児童が多く見られた。

・GT活用の際には、学習のねらいなどをGTと事前に打ち合わせる時間と場を設定したことで、GTの方々にも学習内容を深く理解していただき、子どもたちの思いや気づきを大切にしながら学習を進める事ができた。

・駒馬南校区の課題を自分たちの課題として捉え、学習して調べたり考えたりしたことをもち、自分たちにできることを実践しようとする態度が見られた。また、これからのまちづくりは自分たちの手で行うという決意を持ち、地域行事や地域の方々との関わりを積極的に求めていく姿が見られた。

・自分たちが学習したことを発表・発信する場を設定したことで、自分たちの考えや思いを伝えることの大切さと喜びを感じる事ができた。

○課題

・本年度の実践をもとに、各学年の計画を見直し、地域のひと・もの・ことの財産を大切にして、地域の方とのつながりを大切に教材開発を行う必要がある。

・「福祉」学習においては、「体験」をもとに、地域と自分がどう関わるか、自分には何ができるのかといったことについて、発達段階に応じた目標・学習活動、そして、学年間の系統性・連続性・発展性などをさらに工夫し、来年度の計画を立てる。